

# 次世代家具デザインの素材と仕上げの研究 Vol.1

～ 2011年度ミラノサローネ視察調査より ～

A study of the furniture material and finishing of the next-generation design Vol.1

～ The 2011 Milano Salone trend research ～

根 来 貴 成

NEGORO Takanari

## はじめに

ミラノサローネは、毎年イタリア・ミラノで開催される世界最大規模の家具見本市である。家具やキッチン、オフィスやライトなどその年のデザイン・トレンドがいち早く発信され、2011年は世界中から約32万人<sup>1</sup>以上が訪れた。ヨーロッパ中のメーカーやデザイナーが一同に会し、インテリアデザイン界で最もエキサイティングな1週間とも言われている。

本研究は、2011年度のミラノサローネの視察により家具デザインの素材や仕上げ、形態などの傾向をまとめ、次世代家具デザインの方向性を探ると同時に、教育の現場にも還元することを目的としている。



ローフィエラ ミラノ

## 1. Chairについて(図1参照)

素材や仕上げの傾向としては、グループ②の成形合板シェルやグループ⑩の樹脂成形シェルを使用した椅子が多く、共に薄く美しい曲面の造形が目についた。成形合板の技術も進み美しい3次曲面を実現できるようになった。また、樹脂成形シェルはリブなどで補強するのではなく、薄くても強度がでる造

形にまとめられている。樹脂の2色成形を使用したシェルも軽快さがあった。また、グループ⑧のように環境に配慮してシェルに再生材を使用した椅子も増えてきた。グループ⑥や①などのように、人工素材と天然素材を組み合わせたナチュラルな仕上げの椅子も目立った。シェルに樹脂や紐の編み込み材を使用し、脚やフレームに木無垢材や金属材の塗装かメッキを使用している。また、グループ④は革材の特性を生かした造形で体になじむ座り心地であった。

形態の傾向としては、グループBのように背と座が美しい3次曲の一体シェルと細い金属材の脚の組み合わせで軽快な形態が多い。

また、グループAのように紐材やメッシュ材、樹脂や透明感のあるシェルと細い金属材の脚との組み合わせで軽快な形態も多い。

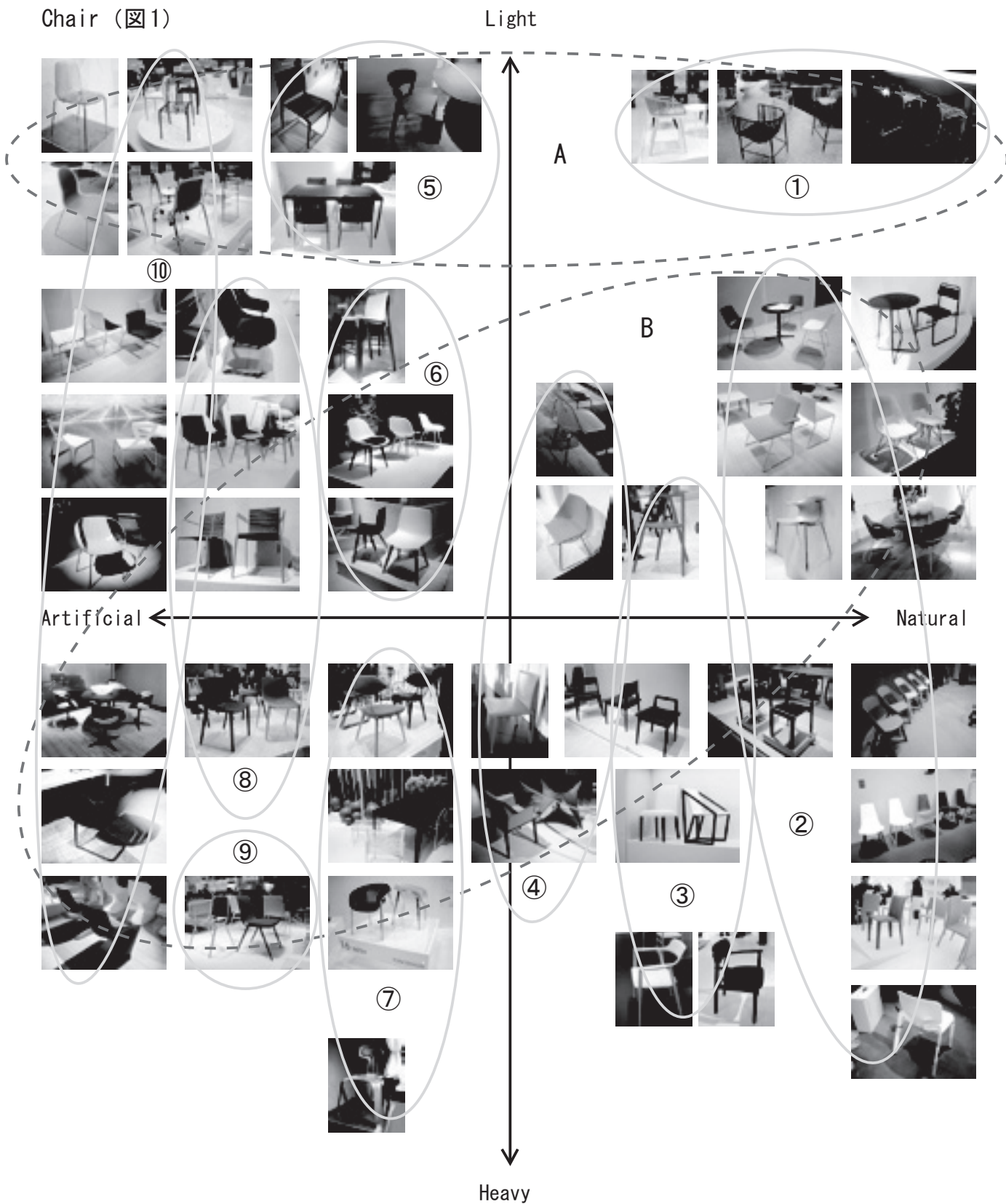
### <素材と仕上げのグループ> 緑実線

- ①紐材の編み込みシェルと金属材の塗装かメッキ
- ②成形合板シェルと金属材の塗装かメッキ
- ③木の無垢材
- ④革材の特性と金属材の塗装かメッキ
- ⑤メッシュ材、籐編みと金属材の塗装かメッキ
- ⑥樹脂成形シェルと木無垢材
- ⑦金属のロッドや金属メッシュ材
- ⑧再生材シェルと金属や木の無垢材
- ⑨アルミダイキャスト<sup>2</sup>
- ⑩樹脂成形シェルと金属材の塗装かメッキ

### <形態のグループ> 赤破線

- A 紐材やメッシュ材、樹脂や透明感のあるシェルと、細い金属材の脚との組み合わせで軽快な形態
- B 背と座が美しい3次曲の一体シェルと細い金属材の脚との組み合わせで軽快な形態

Chair (図1)



## 2. Lounge Chair について (図2参照)

素材や仕上げの傾向としては、グループ⑤のウレタンクッション材シェルに金属材の塗装かメッキの脚の組み合わせとグループ⑨の樹脂単素材成形シェルを使用した椅子が多い。共に美しい3次曲面の造形が目付いた。また、グループ②の金属材のフレームに紐材の編み込みシェルやグループ①のようにウレタンクッション材シェルに木無垢材の脚を組み合わせた椅子も多くナチュラルな風合いを表現している。⑧は樹脂シェルにウレタンクッション材と木無垢材の脚でナチュラルな風合いを表現している。グループ③は革材の特性を生かした造形と体になじむ座り心地であった。グループ⑥は金属材のフレームにメッシュ材を組み合わせて軽快に仕上げている。また、グループ⑦のように環境に配慮してシェルに再生材を使用した椅子も増えている。

形態の傾向としては、グループAのように背と座または脚が3次曲の美しい一体シェルか、細い金属材の脚との組み合わせで軽快な形態が多い。また、グループBのように背がハイバックで包み込むような形態で個の空間を充実させた椅子も増えている。グループCは安楽性が高い寝椅子で様々な素材に合った形態にまとめられている。

### <素材と仕上げのグループ> 緑実線

- ①ウレタンクッション材と木無垢材か成形合板
- ②紐材の編み込みシェルと金属材の塗装かメッキ
- ③革材と金属材の塗装かメッキ
- ④樹脂成形シェルと金属材の塗装かメッキ
- ⑤ウレタンクッション材と金属材の塗装かメッキ
- ⑥メッシュ材と金属材の塗装かメッキ
- ⑦再生材シェルと金属材の塗装かメッキ
- ⑧樹脂シェルにウレタンクッション材と木無垢材
- ⑨樹脂単素材

### <形態のグループ> 赤破線

- A 背と座が一体シェルで美しい3次曲面形態
- B 背がハイバックで個の空間を充実させた形態
- C 安楽性が高い寝椅子の形態

## 3. Sofa について (図3参照)

素材や仕上げの傾向としては、グループ④のウレタンクッション材シェルに金属材の塗装かメッキの脚が多く、クッション部の張りのある美しい曲面の仕上げが目付いた。グループ①の成形合板シェルに金属材の脚の組み合わせや②の籐編みシェルはナチュラルな風合いで軽快さを表現している。

形態の傾向としては、グループBのように背を包み込むようなハイバック形態でコミュニケーション空間を充実させた椅子も増えている。また、グループAのように薄い背座一体のシェルに細い金属材フレームを組み合わせた軽快な形態は新鮮さを感じる。グループCはソファに本棚やプランターなどの機能が付いた形態である。

### <素材と仕上げのグループ> 緑実線

- ①成形合板シェルと金属材の塗装かメッキ
- ②籐編みシェルと金属材の塗装かメッキ
- ③厚めのウレタンクッション材
- ④ウレタンクッション材と金属材の塗装かメッキ
- ⑤革材と金属材の塗装かメッキ

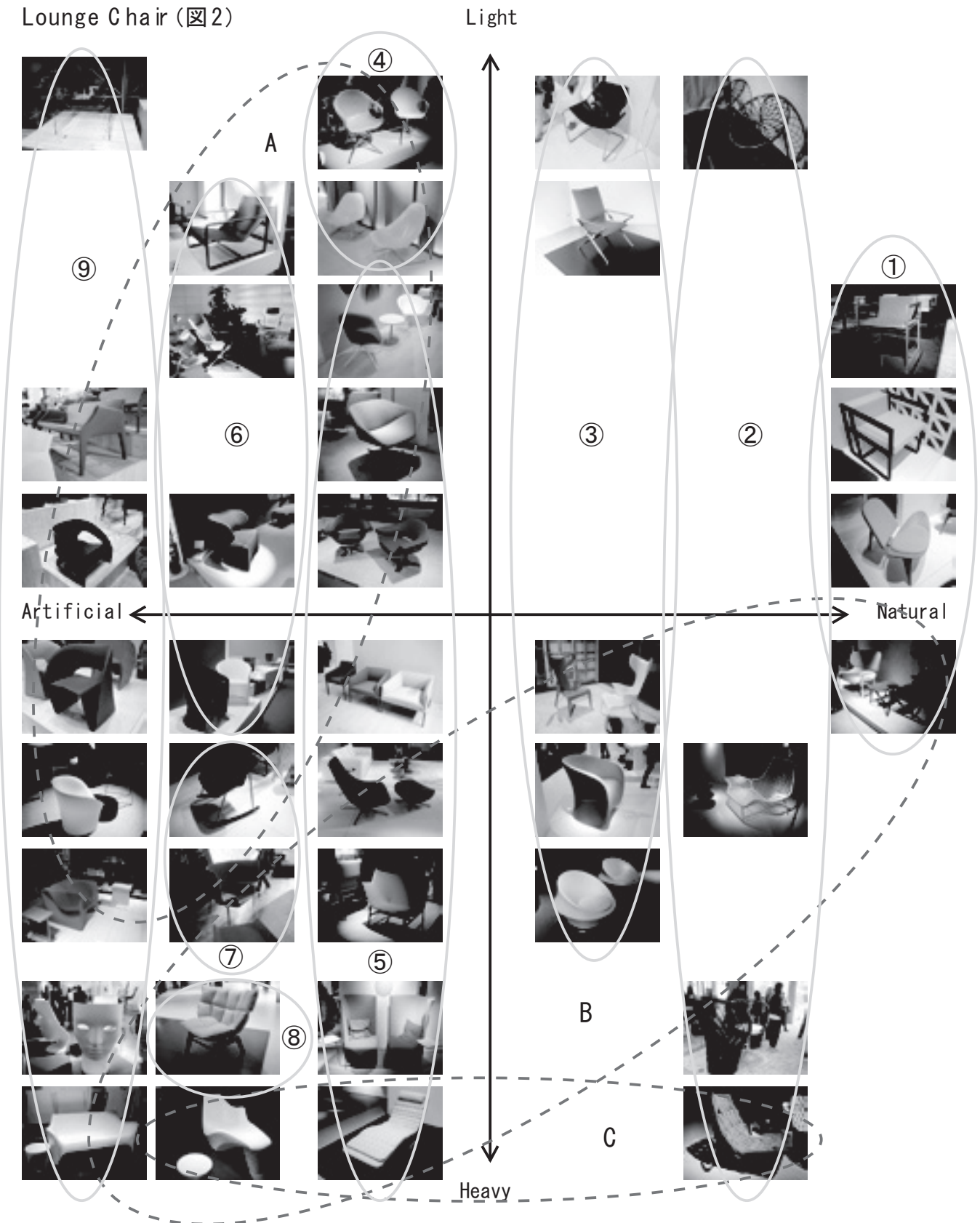
### <形態のグループ> 赤破線

- A 薄い背座一体のシェルに細い金属材フレームを組み合わせた軽快な形態
- B 背がハイバックで個の空間を充実させた形態
- C 本棚やプランターなどの機能が付いた形態

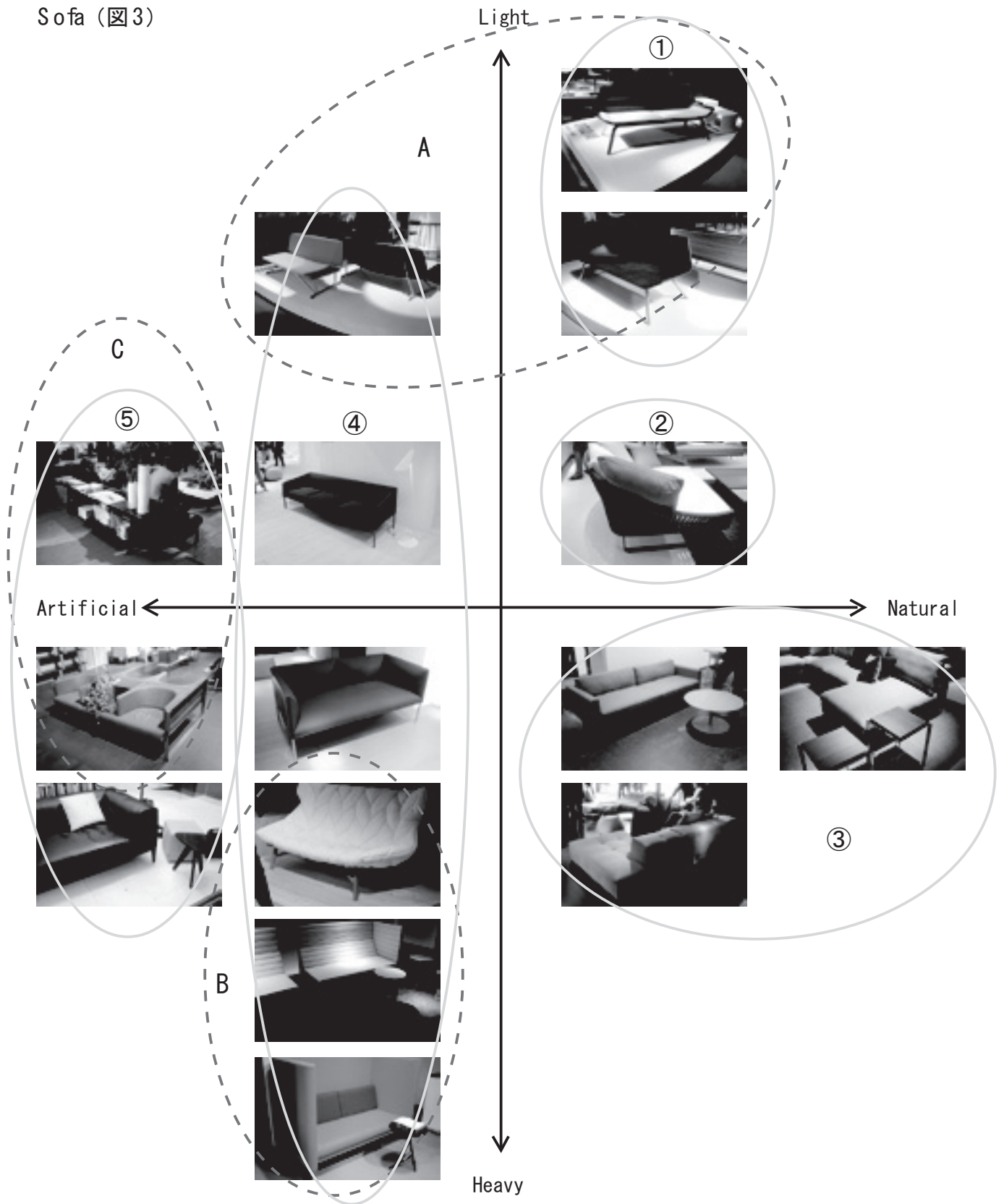
## 4. Stool について (図4参照)

素材や仕上げの傾向としては、グループ④の成形合板のシェルに金属材の塗装かメッキの脚、グループ⑥の樹脂材のシェルに金属材の塗装の脚が多い。グループ①や⑤は成形合板や革の特性を活かした仕上げをしている。形態の傾向としては、グループAのように背なしのシェルに、細い線材のフレームを組み合わせた軽快な形態が多い。また、グループBは成形合板、紐材、革材、樹脂成形などの特徴を活かした塊感を感じさせる形態にまとめられている。

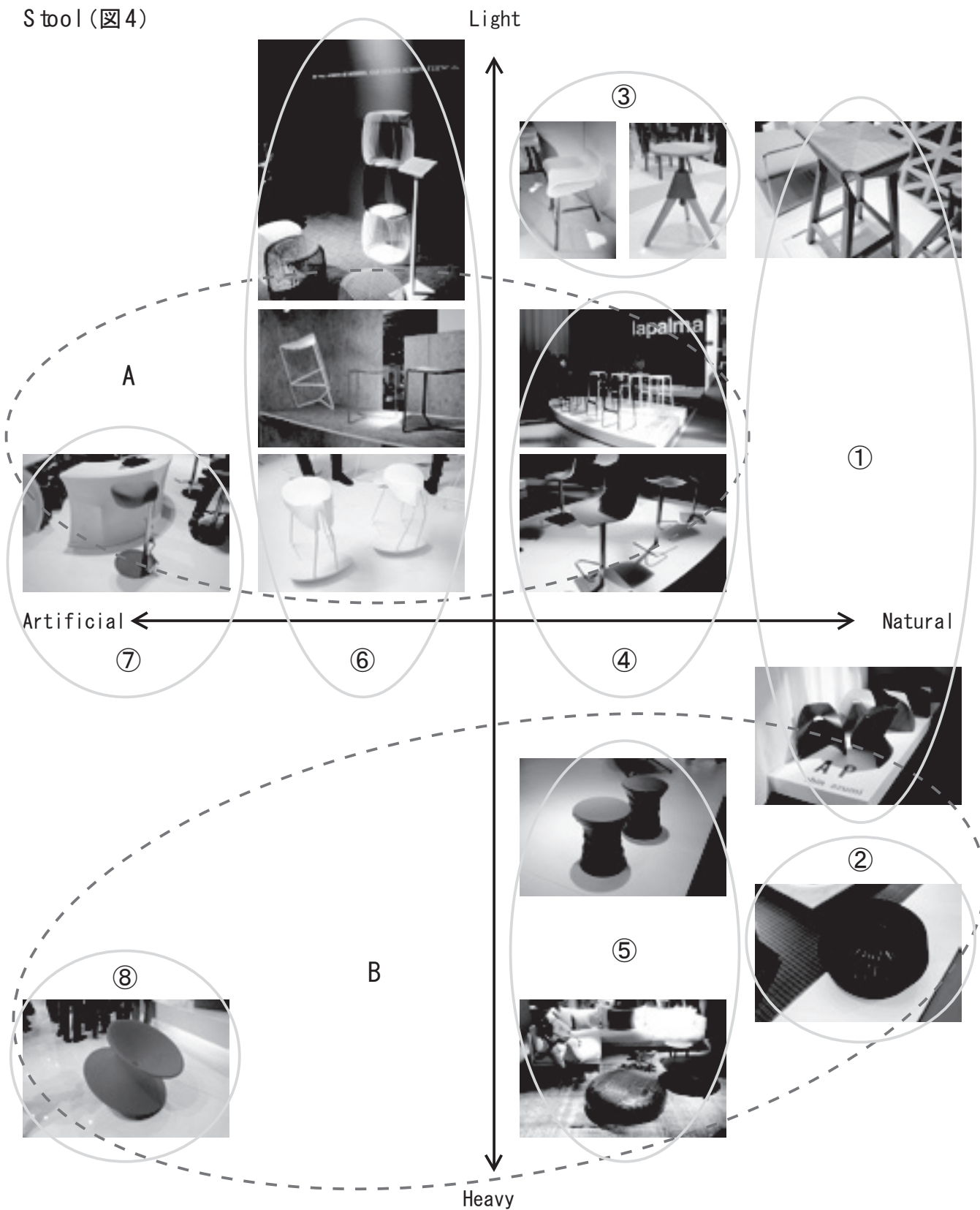
Lounge Chair (図2)



Sofa (図3)



Stool (図4)



**<素材と仕上げのグループ> 緑実線**

- ①成形合板と木無垢材
- ②籐編みシェルと金属材の塗装かメッキ
- ③木材と樹脂材
- ④成形合板と金属材の塗装かメッキ
- ⑤革材とウレタン
- ⑥樹脂材と金属材の塗装
- ⑦ウレタンクッション材と金属材の塗装かメッキ
- ⑩樹脂単素材

**<形態のグループ> 赤破線**

- A 背なしのシェルに、細い線材のフレームを組み合わせた軽快な形態
- B 塊感を感じさせる形態

**5. Table について (図5参照)**

素材や仕上げの傾向としては、グループ③の木材に鏡面塗装か艶消し塗装仕上げが多くみられる。また、グループ①のように天板がミディアム色のオークやウォールナットの木目材を中心としたナチュラルな仕上げも多く、グループ②のようにミディアム色の天板と脚に金属材の塗装かメッキを組み合わせた仕上げも多い。グループ④は木材と金属材の組み合わせに塗装仕上げをしている。

形態の傾向としては、グループBのように天板が脚より飛び出していて、4本脚や逆V字形か下で連結された4本脚形態が多い。また、グループAのようなコンパクトなサイドテーブルも多く見られた。天板が丸や四角で脚が一本脚に丸や十字ベースが多く、細い4本脚もあり軽快な形態である。グループCはローテーブルで厚い天板に細い金属材の脚との組み合わせである。グループ④のように天板が拡張できる形態のテーブルも多い。

**<素材と仕上げのグループ> 緑実線**

- ① 木目材 (オーク、ウォールナットのミディアム色)
- ② 木目材と金属材の塗装かメッキ
- ③ 木材に鏡面塗装か艶消し塗装
- ④ 木材と金属材の組み合わせに塗装

**<形態のグループ> 赤破線**

- A 天板が丸や四角で脚が一本脚に丸や十字ベースが多く、細い4本脚もあり軽快な形態
- B 天板が脚より飛び出していて、4本脚か逆V字形や下で連結された4本脚形態
- C 厚い天板に細い金属材の脚を組み合わせた形態
- D 天板が拡張できる形態

**6. Shelf について (図6参照)**

素材や仕上げの傾向としては、グループ③のように棚部や扉部が木材に鏡面塗装か艶消し塗装仕上げをしたものが多い。また、グループ①のように扉部をミディアム色のオークやウォールナット木目材で強調したものや、グループ②のようにミディアム色の木目材と鏡面塗装か艶消し塗装仕上げとの組み合わせも多い。グループ④は棚や扉を人工大理石やメタル化粧材、皮材などで仕上げている。

形態の傾向としては、グループDのようにソリッドな形態で扉がプッシュラッチ<sup>3</sup>や目地などで開閉するものが多い。また、グループBのようにプッシュラッチや引き違い扉とオープン棚の組み合わせやグループCのようにプッシュラッチ扉付きボックス棚とオープン棚の組み合わせも多い。グループAは棚に工夫があり、四角いオープン枠に斜めに交錯する棚板や、連続する十字の仕切り板で軽快な形態にまとめられている。

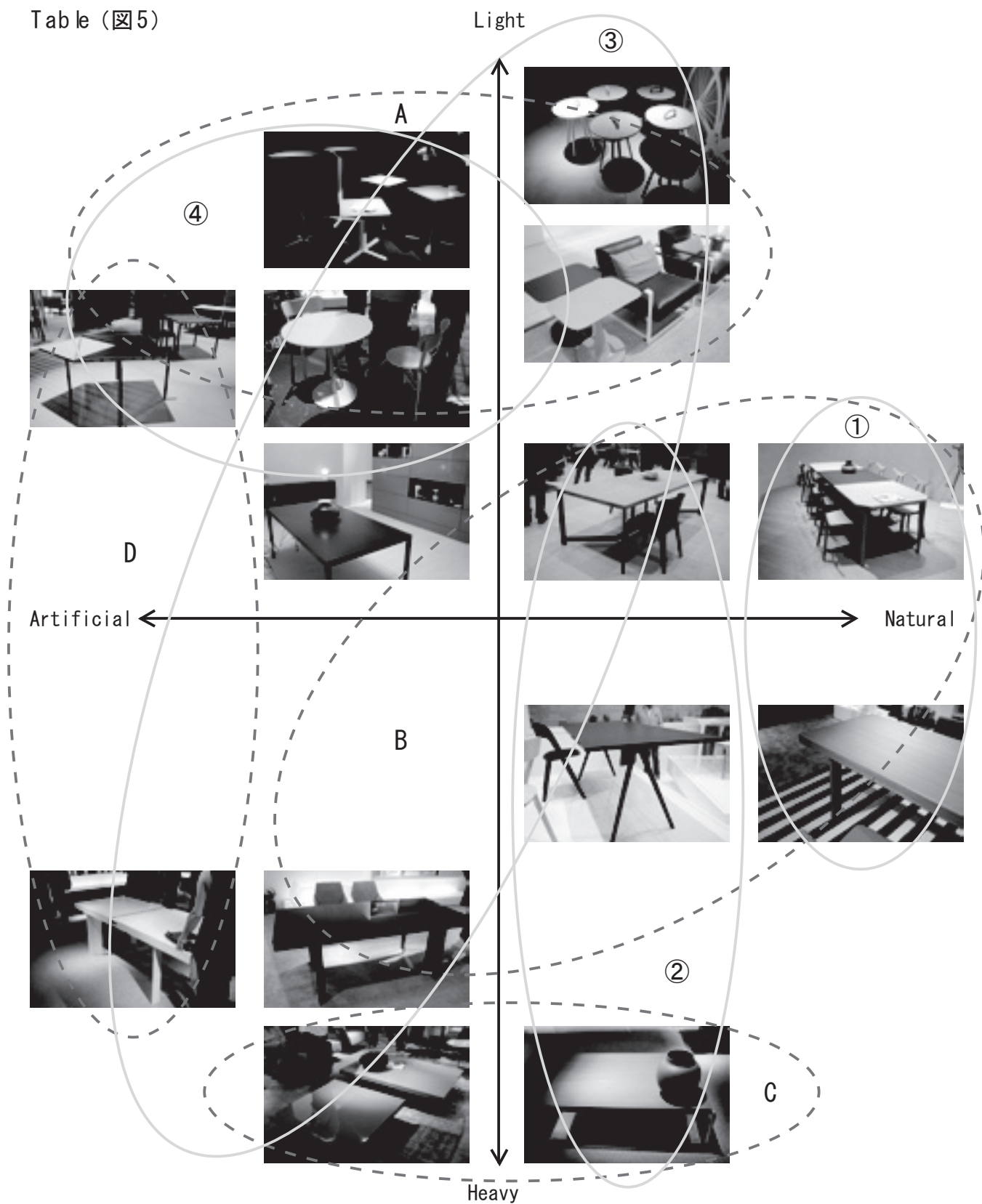
**<素材と仕上げのグループ> 緑実線**

- ① 木目材 (オーク、ウォールナットのミディアム色)
- ② 木目材と木材に鏡面塗装か艶消し塗装
- ③ 木材に鏡面塗装か艶消し塗装
- ④ 人工大理石やメタル化粧材、革材

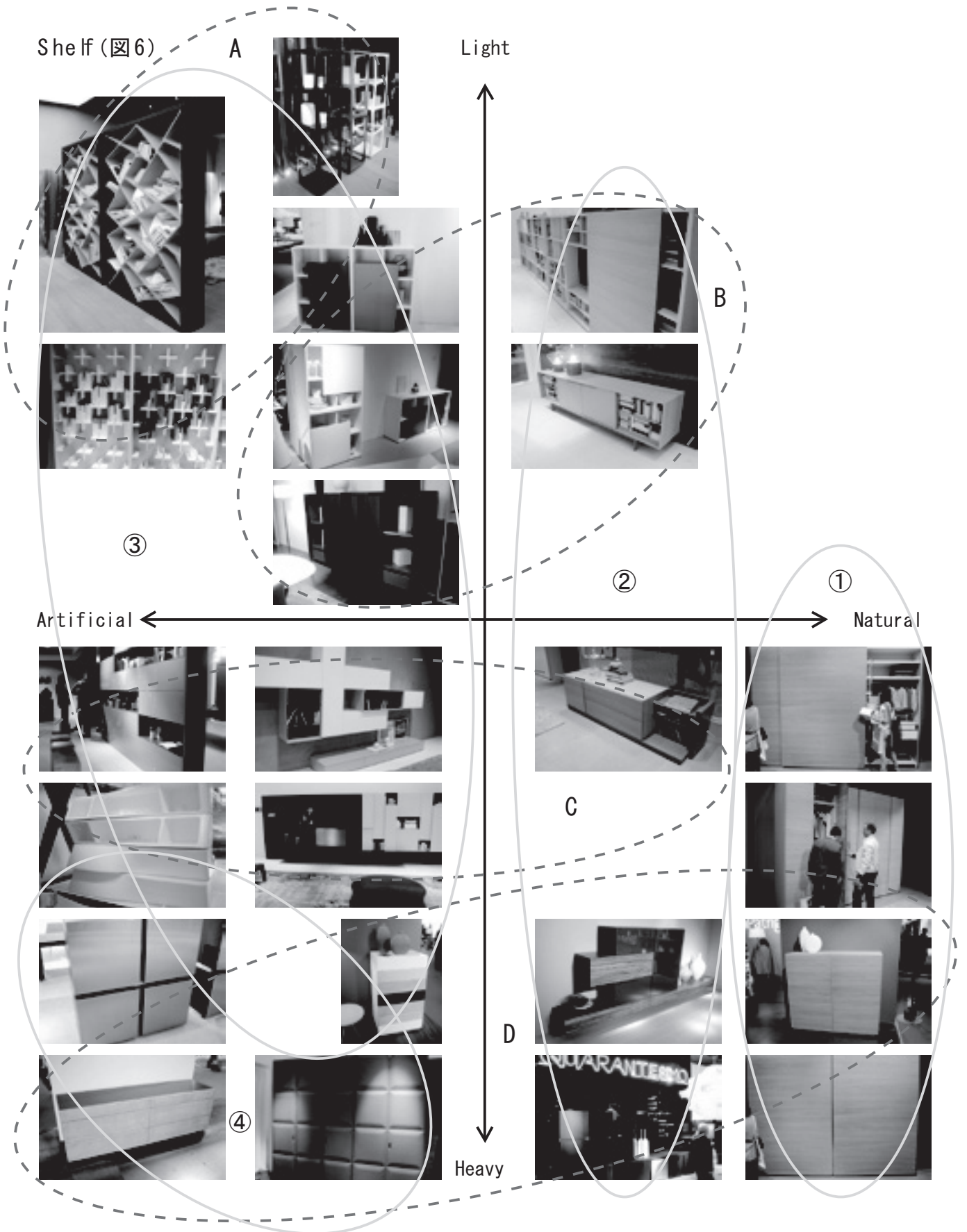
**<形態のグループ> 赤破線**

- A 棚に工夫がありオープンで軽快な形態
- B 扉とオープン棚を組み合わせた形態
- C 扉付きボックス棚とオープン棚を組み合わせた形態
- D 扉のプッシュラッチや目地などで扉を開閉する形態

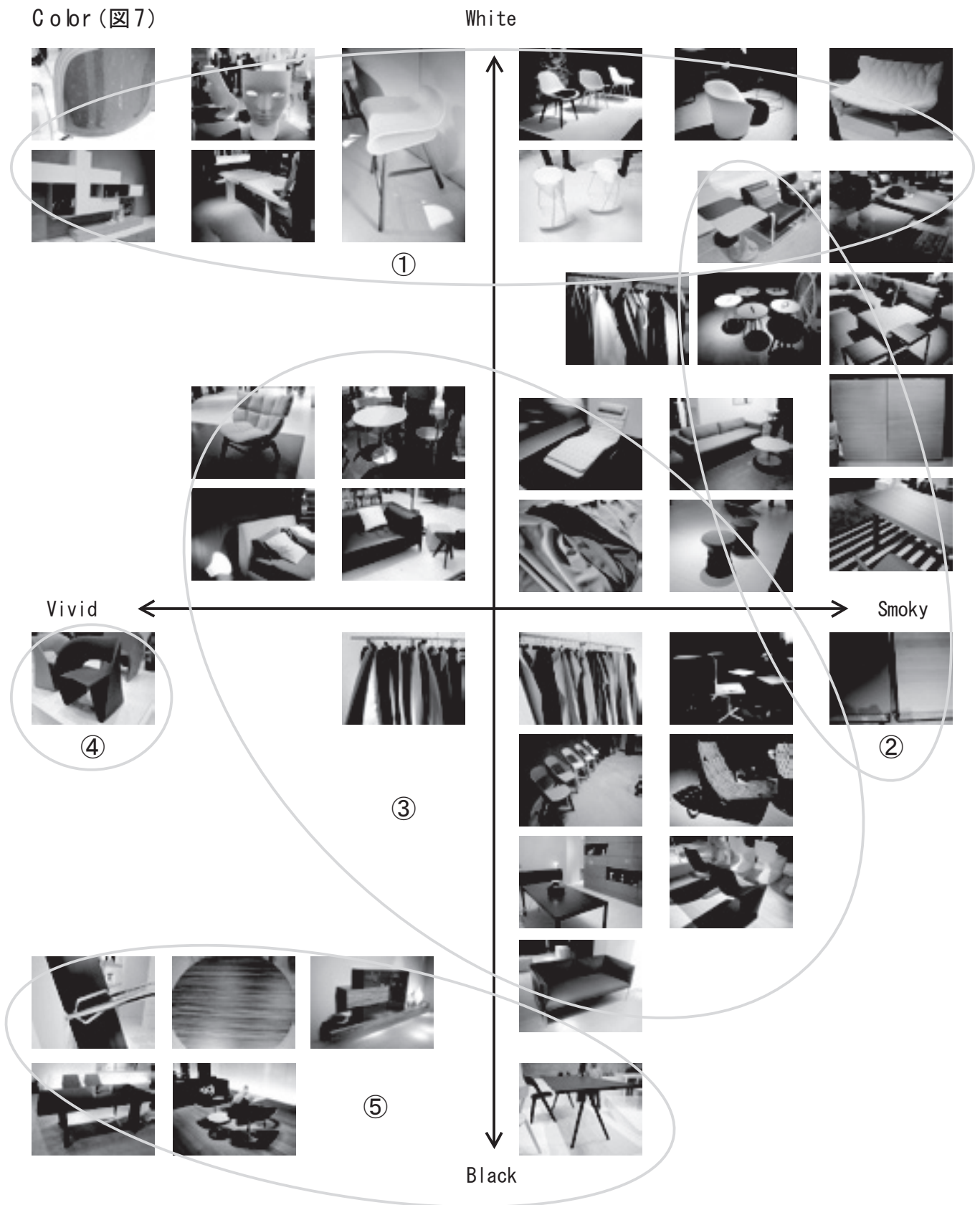
Table (図5)







Color (図7)



## 7. Colorについて (図7参照)

カラーの傾向としては、グループ②のようにミディアム色のオークやウォールナットの木目に合うようにスモークカラー<sup>4</sup>やグループ③のようにアースカラー<sup>5</sup>が多い。中でもくすんだイエローやグリーン、オレンジ、レッド、紫が多い。また、グループ①のように白を基調としたマット仕上げや鏡面仕上げのものも多い。グループ⑤は黒を基調としたマット仕上げや鏡面仕上げのもので、ゼブラ柄の木目や金属材のメッキとの組み合わせも多い。グループ④のビビッドカラーはあまり見られなかった。

### <カラーのグループ> 緑実線

- ① ホワイトカラー (マット仕上げ、鏡面仕上げ)
- ② スモークカラー (ミディアム色のオークやウォールナットの木目に合わせた色味)
- ③ アースカラー (ミディアム色のオークやウォールナットの木目に合わせた色味、くすんだイエローやグリーン、オレンジ、レッド、紫が多い)
- ④ ビビッドカラー
- ⑤ ブラックカラー (マット仕上げ、鏡面仕上げ、ゼブラ柄の木目やメッキとの組み合わせ)

### おわりに

家具のデザインをする上で、素材や仕上げは重要なデザイン要素の1つである。特に家具の形態はそれに左右されるところが大きい。また、椅子やソファ、テーブル、収納など使用用途はそれぞれ違うが使用される空間は同じである。ゆえに、素材や仕上げ、カラーなどがコーディネートしやすいように絶妙なバランスでコントロールされている。

そして、それらのトレンドはテーブルや収納などインテリア空間で大きな面積をとる家具に影響されるところが大きい。近年の自然回帰志向とも合わせてテーブルや収納に使われる木目がナチュラルな風合いの物が多く、ミディアム色のオークやウォールナットの木目が多い。それに合わせてカラーも白や

スモークカラー、アースカラーが増えている。ただ、重くなりすぎないように椅子のシェルや脚、収納の扉などに鏡面塗装仕上げや金属のメッキを用いて軽快さを演出したりしている。椅子の素材や仕上げに関しても様々な物が使用され、それぞれの特性に合わせて組み合わせられ軽快な形態を生み出している。背を包み込むようなハイバック形態は個の空間の充実やコミュニケーションを取りやすい効果も生み出しており、形態に機能が盛り込まれている。

今回の視察で多くの製品を実際に触れたり座ったりしながら次世代家具デザインについて考えてきた。そして、まとめていくうちに気付いたことは、多くの製品が安楽性やナチュラルな風合いを意識しており、人の気持ちや環境に配慮することを感じさせる形態にまとめられているということである。デザインをする上で当然の作業ではあるが、時代が進んで新たな素材や仕上げが使用可能になったとしても、この感覚がしめる部分が大切であるということに改めて気付かせてもらえることができた。これらのことを今後のデザイン活動や教育の現場にも生かしていきたいと思う。

### 註

- 1 COSMIT (ミラノサローネ国際家具見本市 公式ホームページより)
- 2 アルミダイキャスト:溶かしたアルミニウム合金を鋳型に入れ、高圧を掛けて鋳造する方法。精密で薄肉、大量生産に向く。
- 3 プッシュラッチ:収納扉の開閉装置の1つ、押すと開く構造。
- 4 スモーキーカラー:煙ったようにくすんだ、地味な色合い。
- 5 アースカラー:地球の自然がもつ色合い。大地のような褐色や、空・海の青色、草木の緑色など。

(ねごろ・たかなり 製品デザイン)

(2011年10月31日受理)